

第 8 期諏訪湖水質保全計画の策定について

第 8 期諏訪湖水質保全計画策定専門委員会

1 策定の目的

諏訪湖では、昭和 62 年度以降 7 期 35 年にわたって湖沼水質保全特別措置法に基づき湖沼水質保全計画（以下「計画」という。）を策定し、下水道の整備、工場・事業場の排水規制、農地からの汚濁負荷量の削減などの施策を進めてきた。

こうした取組の結果、水質は改善傾向にあるが、行政機関、地域住民、事業者の協働により、生態系の保全を含めた水質保全施策を一層推進するため、令和 4 年度を初年度とする「第 8 期諏訪湖水質保全計画」を策定する。

2 これまでの検討状況

（１）委員

委員長	宮原 裕一	（信州大学理学部 湖沼高地教育研究センター 諏訪湖臨湖実験所 教授）
委員長代理	沖野 外輝夫	（信州大学 名誉教授）
委 員	伊藤 雅章	（岡谷市市民環境部環境課 課長）
〃	小川 滋	（長野県水産試験場 場長兼諏訪支場長）
〃	小松 八郎	（信州諏訪農業協同組合 代表理事組合長）
〃	高村 典子	（国立研究開発法人国立環境研究所 客員研究員）
〃	寺島 範和	（茅野市市民環境部環境課 課長）
〃	豊田 政史	（信州大学工学部 水環境・土木工学科 准教授）
〃	藤森 良隆	（諏訪森林組合 代表理事組合長）

（２）開催状況

【第 1 回専門委員会】 令和 4 年 7 月 14 日（木）

○第 7 期計画の水質保全施策の進捗状況、第 8 期計画の骨子等について審議

【第 2 回専門委員会】 令和 4 年 9 月 9 日（金）

○諏訪湖の水質の将来予測、第 8 期計画（素案）等について審議

【第 3 回専門委員会】 令和 4 年 10 月 24 日（金）

○第 8 期計画（案）について審議

○主な意見

- ・水質目標の考え方は重要であり、より分かりやすい記載を検討すべき。
- ・第 2 章の方針と第 3 章の取組みの関連性を分かりやすく示せるとよい。
- ・第 4 章の「上川・宮川流域における流出水対策推進計画」に、全窒素濃度の減少など第 7 期計画における施策の効果を記載すべき。

3 パブリックコメント（詳細は別紙のとおり）

- 募集期間 令和 4 年 9 月 21 日（水）から 10 月 20 日（木）まで
- 募集内容 第 8 期諏訪湖水質保全計画（素案）に関する意見
- 提出件数 13 件 （意見数 102 件）

4 計画（案）の概要

（１）計画期間 令和４年度～令和８年度（５年間）

（２）計画期間内に達成すべき目標

項 目	水質目標 (令和８年度)	現状 (令和３年度)	環境 基準	【参考値】 第７期計画
COD（75%値）	4.7 mg/L	5.5 mg/L	3 mg/L	4.8 mg/L
COD（年平均値）	4.0 mg/L	3.9 mg/L	－	4.4 mg/L
全窒素（年平均値）	0.62 mg/L	0.62 mg/L	0.6 mg/L	0.65 mg/L
全りん（年平均値）	現状水準の維持	0.041 mg/L	0.05 mg/L	現状水準の維持
透明度（年平均値）	1.3 m 以上	1.2 m	－	1.3 m 以上

（３）主な取組

ア 水草の除去

- ・ 今後５年間でヒシ除去量を倍増することを目指し、ヒシの除去を官民連携で進めるための新たな仕組みづくりを検討
- ・ 水草刈取船によるヒシの刈取り量は年510トン以上を目標とし、試行的に刈取量を増加し、生態系への影響を観察
- ・ 生物生息域や景観の保全に配慮した刈取方法や刈取時期を検討

イ 覆砂（浅場造成）

- ・ 湖岸域の一部で覆砂を実施し、湖底からの窒素・りん溶出や貧酸素化を抑制するとともに、シジミ等の生息場所の創出やヒシの繁茂を抑制

ウ 底層溶存酸素量の環境基準の類型当てはめ

- ・ 保全対象種の生息状況等を踏まえて、底層溶存酸素量の環境基準の類型当てはめを行い、シミュレーション結果や水草の繁茂状況を参考に測定地点を設定

エ 生物豊かな湖岸域の復元・創出

- ・ 水産生物が生息しやすい構造物の設置等、湖内の生息・産卵場所の整備を検討
- ・ 魚食性鳥類や外来魚による漁業被害対策を継続し、魚や貝類が棲みやすい豊かな漁場環境を再生

オ 調査研究の推進

- ・ 諏訪湖環境研究センター（仮称）を設置し、諏訪湖を一体的・総合的に調査研究する体制を整備

5 今後のスケジュール

時 期	内 容
11 月	長野県環境審議会から答申
12 月	市町村意見聴取、河川管理者との協議
令和５年１月	環境大臣に協議（省庁間協議）
3 月	環境大臣の同意、策定、公告

※諏訪湖創生ビジョンと並行して検討を進め、ビジョンについても３月に改定予定